サイエンスツアーⅠ・Ⅱ

総合理学・探究部　　濱 泰裕

1.1.　研究開発・実践に関する基本情報

時期/年組(学年毎参加数)	サイエンスツアーⅠ・Ⅱ，ともに実施できず。																
	1a	1b	1c	2a	2b	3a	3b	4a	4b	5a	5b	6a	6b	7a	7b	8a	8b
本年度当初の仮説	◎	○	◎	○		◎	○	◎		○	◎	◎	◎	◎	◎		◎
関連file	過年度の内容・教材等(本年度も似た内容を計画)：http://seika.ssh.kobe-hs.org/ita/6																

1.2.　研究開発の経緯と本年度当初の課題

サイエンスツアーは，2008年度から毎年継続したが，コロナ禍により昨年度は実施できなかった。本年度も実施予定であったが，コロナ感染拡大により実施は実現しなかった。

1.3.　研究開発実践

目的　生徒が，今後の研究（探究）活動や独自の問題解決への実践力を身につけるとともに，発表・質問・議論する力も実践的に身につける。

方法　大学や研究所等を実施場所として，現役の研究者と接して最先端の研究開発そのものを体験するとともに，プレゼンテーション(発表・質問)やワークショップ(議論)も実施する。

内容　ツアーⅠは大阪大学(6研究室)での実習(全日)である。ツアーⅡは，東京大学医科学研究所，日本科学未来館，高エネルギー加速器研究機構，農業・食品産業技術総合研究機構，物質・材料研究機構，産業技術研究所での実習を実施する。さらに，日本科学未来館において，単なる見学ではなく質問力を強化させたり，ワークショップを実践させる。毎年，2泊3日で実施している。

結果　コロナ感染拡大により実施は実現しなかった。

1.4.　「8つの力の育成」に関する自己評価と本年度の取組から見えてきた今後の課題

残念ながら実施できなかったため，評価なし。

1.5.　外部人材の活用に関する特記事項

この企画は，すべて外部人材(本校や他校のOBも含む多くの研究者)に協力していただいている。